



自然を
楽しむ

⑦②

「恐竜と共に」

北村 豊

(小布施町栗ヶ丘)

若くて水々しい緑をした初夏の銀杏です。

柄の先に普通は2個、時には1個や3個の“胚種”という種子になる部分が剥き出しで、裸子植物と呼ばれます。写真の黒い部分は、未受粉の胚種です。

恐竜全盛期のジュラ紀を含む中世代に、この実は草食恐竜の格好の餌となり、種子は糞と共に世界中に広がったと考えられています。

かつては多種類あったイチヨウも、氷河期に恐竜と共に消え、今はこの1種が現存するのみです。